

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391600133		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム 向の山		
所在地	名古屋市長久区向が丘三丁目1710番		
自己評価作成日	平成28年12月 6日	評価結果市町村受理日	平成29年 1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2391600133-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長久区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は「外出」「男の生きがい介護」をテーマとし、開設当初から力を入れて取り組んでいます。この2つの取り組みを軸として、施設に入ってもその人らしい馴染みの生活が送れるよう支援しています。「外出」では、日常的に買い物・喫茶店などへの外出、地域のお祭りや朝市へも出かけています。また、入居者様の希望のもと、年に1回ご家族様参加型で一泊旅行を企画しています。今年度は三河へ温泉に行きました。入居者様、ご家族様、スタッフで温泉・食事・観光を通して、絆がさらに深まりました。「男の生きがい介護」と称した「井戸掘り」や「畑仕事」「庭の手入れ」は、どちらも地域の方と協力しながら取り組み、地域交流のきっかけとなっています。今年度は、庭整備に力を入れ、庭仕事に張り切った様子を入居者様が見せられることもあり、入居者様に充実感・達成感を味わって頂き、事業所において“普段の様子”となるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

6月に着任した新管理者は、法人の同一エリアのグループホーム(喫茶店併設)の管理者の経験がある。当ホームの利用者・職員が喫茶店に通っていたこともあり、顔馴染みの関係であり、管理者交代による混乱もなく職員間のコミュニケーションもスムーズに行われている。新管理者は、職員の提案・要望に対して「まず、やってみる」という自主性を大切にしている。理念である「あなたのままで、そのまま」を実践するため、「利用者の思い」の把握に努めている。利用者一人ひとりが生きがいを持って生活できるよう、支援の中で思いを聞き逃さないように取り組んでいる。職員の提案で、利用者の思いを叶えるために家族と計画を練って実現できた事例がある。看取り等、「家族参加型介護」を目指しており、利用者や家族の意向に沿った支援に熱意をもって取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 理念を『あなたのままで、そのまま』と定め、その人らしい生活を続けられるよう、ニーズを考え、関係・環境づくりを目指している。 朝礼にて理念を声に出して浸透させている。 	朝礼で理念を唱和してから支援に入っている。管理者と職員との面談で個人目標を立て、日々のケアに活かしている。介護度5になっても、利用者の生きがいを見つけ、家族と協力して実現に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 入居者と買い物や喫茶店や散歩に出かけ、店の方や近所の方と顔なじみになり声をかけて頂いている。 「こども110番の家」として地域のこどもを見守っている。 地域の夏祭りやイベント参加に努めている。 	近隣3学区の夏祭りには利用者の席が設けられ、利用者が職員と共に参加し、地域の大掃除や朝市にも出向いている。中学生の福祉体験やボランティアを積極的に受け入れ、管理者は地域の消防団の一員でもある。	ホームの掲示板に、地域の人でも掲示できるようにしている。職員は認知症の専門家であり、掲示板を使用して認知症の情報発信の拠点としての役割担って行くことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ブログで認知症の方との関わり方や日々の様子を記事として取り上げ、地域の方に広く伝えている。 積極的に外出をして認知症ケアの実際を地域の方に見て感じて頂き、時折、地域の方からの相談にのったり、認知症に関する知識を伝えている。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 毎回、事業所の活動報告を行っている。参加して頂いている(地域の方・福祉関係者・ご家族様など)方から、事業所の運営などに対しての意見を頂き、実際に行動目標を立て、報告をしている。 	会議には行政・いきいき支援センター・自治会長・婦人会・3地域の民生委員・知見者・大学助教授・消防団等の多職種が参加し、法人合同で開催している。活動報告に続き、参加者から活発な意見・提案がある。	利用者の会議参加がない。利用者の参加により、参加メンバーのホームに対する理解が深まり、会議がより充実する事が期待できる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 天白区職員へ地域運営推進会議への参加を依頼すると同時に、情報の共有を行いながら協力関係を築いている。 	運営推進会議には市の福祉課課長・いきいき支援センター職員が参加しており、ホームの状況は行政に理解されている。市や区の研修会に参加し、ホーム運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 「介護保険法指定基準における禁止の対象となっている行為」について入社時研修で学ぶ機会を設けている。 拘束になりそうな場面がないか、話し合える環境がある。 	管理者・職員は身体拘束による弊害を理解しており、玄関の鍵を含め拘束をしないケアを実践している。毎年、身体拘束の研修を行い、共通意識を持って支援しており、スピーチロックについてもその場で注意し、尊敬の念を忘れないように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 「虐待防止」社内研修プログラムを入社時研修で、組み入れ知識・実践の形式で学んでいる。 年次計画に沿って全体ミーティングで学ぶことで、現場スタッフが改めて介護の質を見直す良い機会となっている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・当社において、成年後見制度を利用している人がいるため、ミーティングで話し合い、勉強する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時にご家族様と契約書関係の読み合わせを行い、質問をお聞きして細部まで納得して不安なく利用ができるよう、2時間程時間をかけて丁寧な対応を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・「来訪者box」や「社長直行便」で意見を頂けるようにしており、即座に話し合い対応している。 ・ご家族が来所しやすい環境をつくり、来所された際にはスタッフと相互に情報交換を行っている。	年2回の家族会の開催や面会時には意見・要望が言い易い環境を作り、出た意見をタイムリーに対応している。馬好きな利用者の願いを叶えるため、家族と協力して「夢」を実現した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・各ミーティングでスタッフの意見をまとめ、スタッフから出た意見について協議をしている。 ・事前に全スタッフの意見を聞き取り、運営方針を決定している。 ・月に2回の面談でスタッフが直接上司や管理者と話ができる機会を設けている。	月2回のフロアミーティング、月1回の全体ミーティング等、職員の意見を述べる機会は確保されている。その場その場で意見・提案が言え、管理者は聞く体制を取っている。どうしたらできるかを管理者も一緒になって考え、良好な関係ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・月に1度個人面談を行っている。その際に自己目標を設定し、向上心を持てるようにしている。 ・月に2回、上司または管理者は職員と話をする場を設けており、介護職員が前向きに働けるようサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・スタッフが自発的に自身のスキルアップに対して研修を受講できるように「研修受講届」の用紙がある。 ・新入社員において、モチベーションやスキルアップを目的とし、先輩社員と1対1で向き合う取り組みがある。また新卒が集まって話し合う場を設定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・区役所主催のケアマネージャーの勉強会などに参加をしている。 ・地域包括支援センターに情報提供・共有している。 ・グループ内で他施設間交流として各事業所の良い点や改善点を見つけて報告し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス開始前からご本人・ご家族から不安や希望等を傾聴し、可能な限り直接会う事で、安心・納得できるよう努めている。 ・いつでも施設・居室を見学して頂けるよう、現場スタッフにも接遇や簡単な案内ができる体制をとり、パンフレット・施設情報も常に置いている。 		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・初期段階からご家族の話をしっかりと傾聴し、ご家族や本人のニーズを引き出した上での関係づくりに配慮している。 ・現場スタッフも積極的にコミュニケーションを図る事で相談し易い雰囲気を作り、安心できるよう配慮している。変化があれば随時報告・相談を行っている。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族様と本人の視点に立って話をし、その人にとって最も必要と考えられるサービスを家族と共に模索し、それに伴う情報提供を心掛けている。 ・本人が施設にて過ごしやすいように、当施設以外のサービスがご本人・ご家族にとって必要な場合は、他のサービス利用が行えるよう支援している。 		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者のADLを観察メモを用いて判断し、協力しながら生活できるよう環境設定をしている ・毎日洗濯・炊事・掃除などを手伝って頂いている。日常生活動作を大切に支援を行っている。 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・4大レクの開催にあたってご家族にも意見を頂き、参加を促している。 ・月1回、便りと写真の添付による報告に加え、各家族に合わせた方法で随時連絡をしている。 ・小旅行にご理解頂き、ご家族からも希望の声がある。 ・来所の際、時間帯により食事をお誘いし、食事内容やADLを直接見て頂けるよう努めている。 		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・いつまでも自分らしく生活できるように、馴染みの生活の重要性を契約前に説明し、事前にご家族・ご本人から丁寧に聞き取っている。 ・ご本人の馴染みの習い事・特技・趣味などあれば、継続できる環境を整え、生活の一環として取り入れている。 	徐々に馴染みの関係継続が難しくなっている。孫の訪問は、利用者の楽しみとなっている。家族と一緒に墓参りや一時帰宅・かかりつけ医への受診等に出掛けている。パンを焼いたり、新聞の購読、家族に年賀状を書く等、習慣や楽しみの継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフによる朝昼夕の申し送り、当日の入居者の心身状況を共有し、タイムリーな人間関係の調整を行っている。 ・必要時に席替えや介入によって、対人トラブルを防止している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用終了となったご家族に対し、入居者の写真やアルバムをお渡ししたり、施設での会話や生活の様子をお伝えする等の配慮をしている。 ・利用中止となったご家族がボランティアとして来所して下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・観察メモにより、思いや状態の把握に努めている。 ・カンファレンスでご家族の想いを聞きとった上でケアの方向性を検討している。その内容を現場スタッフに情報共有をし、実際の介護に役立てている。 ・必要に応じて個人ノートを作成し、より細かな情報共有に努めている。	利用者との信頼関係を大切にしており、余り喋らない利用者には、表情観察やコミュニケーション方法を駆使し、利用者の発した言葉を聞き逃さないようにして思いを汲み取っている。聞き取った思いを、絵やコメントで「観察メモ」に記録して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・観察メモを用い、その人の馴染みの環境を全員が把握できるように努めている。 ・レクリエーションを企画する際には、それぞれの経験や馴染みの聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・観察メモを用い、ご本人の「できないこと」「できること」「わからない事」「わかる事」を観察し、日々把握できるように努めている。 ・上記の内容をフロアミーティングや全体ミーティングにて話し合い、情報の伝達と話し合いの場を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご家族様とのカンファレンスを定期または、必要時に行う事で現状に即したプランの立案を行っている。 ・カンファレンスでご家族に伝えたいことを事前に現場職員から聞き取っている。また、ケアプランは医療ノートも随時参照し反映させている。	「観察メモ」や家族・フロア職員・医師の意見等を聞き、計画担当者が原案を作成し、家族とカンファレンスを開催して介護計画を作成している。家族アンケートでは、介護計画について回答者全員から好評を得ている。	「観察メモ」等の利用者の思いが、介護計画に反映されていない。把握した思いを根拠に、具体的な(個別ケア)その人らしさが感じられる計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々観察メモを用い、個々の入居者に焦点を当てている。また、観察メモを掲示することで情報の共有をしている。 ・フロアミーティングにて、個別ケアを検討し、実践の様子やその後の変化を話し合い、よりよいケアの提供ができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・買い物、散歩や入浴など、日々変わる入居者からの希望に対して即座に対応できるよう柔軟な支援をしている。 ・昔よく見た馬を見たいという要望に対して、実際に競馬場にご家族様と足を運んだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様と一緒に地域の行事である夏祭りに参加している。 ・週に2、3度ボランティアの方が来所して下さりレクを実施してくれている。入居者の楽しみにもなっている。 ・喫茶店やスーパー等で店員の方が見守りをして下さったりしている。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるようにしている。本人の状態に合わせて適切な対応をとっている。 ・新しく病院にかかる際には、ホームDrと相談のもとご家族に提案し、希望された場所へ行って頂いている。 	かかりつけ医は全員が協力医であり、往診が2週間毎にある。訪問看護が週1回訪れ、訪問眼科、訪問歯科等も随時ある。他科受診は基本家族対応であるが柔軟に対応し、必要に応じた情報提供・収集がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関のDrが2週に1度、看護師が週に1度来所し、入居者の状態の把握に努めている。職員は入居者の日々の体調面の状態を記録に残しており、気づいたことがあればすぐに連絡、相談を行っている。また必要時にはタイムリーに対応して頂いている。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、地域の病院とのケースワーカーと頻りに情報交換を行っている。入院をした際には、窓口の確認・情報交換・今後の相談を円滑に行い、速やかな退院支援に結び付けている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況に応じて、医師を交えながら、ご家族と重度化に伴う支援の方針を話し合うという方針を契約時にご家族と話しあっている。実際に状態の変化がみられた際にはリスクや可能性などDrから話して頂いている。 ・ADLの低下や病気の進行具合等の状況も来所時にご家族に伝え、話をする場を設けている。 	協力医の24時間の応援体制があり、利用者・家族の意向があればホームでの看取りにも対応できる。状況に応じ、利用者・家族・医師・ホームで話し合い、その時の希望を確認しながら対応することとしており、職員の「看取り勉強会」で意識共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・「応救手当マニュアル」「緊急時の対応マニュアル」を作成して、事務所に備えている。また職員にも共有を行っている。 ・年次計画に沿って全体ミーティングで学ぶ機会を設けている。 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所・フロア内に災害時マニュアルを掲示して職員に意識付けをしている。 ・避難訓練を実施し、災害時の対応を学ぶ場を設けている。 	夜間想定防災訓練を行い、初期消火・通報訓練・避難訓練を利用者も参加して実施している。消防団によるAEDの取り扱い、止血・担架作成等の訓練を実施しており、消防団との連携が図れている。	消防団との協力体制はあるが、大規模災害には近隣地域の協力体制が必要となる。運営推進会議等で、具体的な支援方法の整備を行い、地域との協力関係の構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族様に対して契約時に個人情報の利用に関する同意書にて承諾を頂いている。 ・トイレや居室のドアを必要時以外は閉め、個人の空間を大切に、トイレ誘導の声かけ方法を工夫している。 	<p>家族アンケートのコメントに「いつも優しく感じが良い」との評価を得ており、利用者本位の声掛けを行っている。トイレ時のノックやカーテンを閉める等、プライバシーに配慮し、入浴時の羞恥心にも配慮している。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には本人に決めて頂き、意思表示が困難な入居者には「はい」「いいえ」で答えられる質問をし、写真を見せて選んで頂く等で自己決定ができるように心掛けている。 ・日々の中で食事内容や着たい服など選んで頂いている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の昔からの生活パターンの把握を随時、聞き取り・資料を確認して行っている。 ・「今から入浴したい」「散歩したい」「どこか行きたい」等、ご本人から訴えがあれば、安全を配慮しながら実現できるよう支援している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の希望を聞きながら、爪切り・耳掃除・髭剃りを行っている。 ・外出の際には女性は化粧・男性は髭剃りなど、身だしなみを整えて頂き、楽しみを増やせるように支援している。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・「米とぎ」「皮むき」など食事に関する流れを入居者で行い、調理参加困難な方は味見等で参加して頂いている。 ・時折外食し、本人に好きな物を選んで頂いている。 	<p>メニューは利用者の意向を踏まえて決め、月1回の買い物に出掛けている。利用者の「力量・要望」に合わせ、包丁で切る、食器洗い、台拭き等の役割がある。祭レクでは、楽しみなノンアルコールが出ることもある。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回体重を量り食事量との比較をし、変化があればDrに報告している。 ・水分摂取が困難な方に対しては、ストローやトロミを使用したり、好きな飲み物みを提供するなど工夫している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況に合わせ、見守りや一部介助、全介助の支援を使い分けて口腔ケアの支援している。 ・口腔ケアに対して拒否がある方へは、ご家族・歯科医師と相談したり、スタッフ間で情報共有しながら清潔保持に努めている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に排泄チェック表を用いて定期的にトイレ誘導を行い、排泄リズムやパターンを把握している。 ・フロアミーティングにて、その人のADLや思いに沿った個別のトイレ介助方法を検討し、実践して本当に本人にあうものを見つける取り組みを行っている。 	トイレ誘導のタイミングを職員が共通意識をもって支援し、失禁の不快感が無くなりパッドの数が減った事例がある。自立排泄を継続するために、トイレまでの筋力維持を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・日中の散歩などで活動量を増やしたり、ヨーグルトや牛乳を提供することによって便秘の軽減を図っている。 ・排便状況を把握した上で随時ホームDrに相談し、対応している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴中に音楽を流したり、入浴剤を使ったり等、入居者に合わせた楽しみを増やしている。 ・入浴時には1対1のコミュニケーションを大切に、色々なお話をご本人に問いかけ、信頼関係を構築した上で介助するようにしている。 	週2回の入浴を基本としている。1対1での入浴を大切に利用者のペースに合わせ、会話が楽しめるように支援している。季節を感じる柚子湯等の工夫もあり、拒否する利用者には無理強いせず清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ダウンライトを活用し、照明加減を入居者に確認している。 ・どうしても夜間に寝付けない入居者に対しての支援方法を、ご家族や医師や看護師を交えて話し合っている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々で薬情をファイルに保管し、すぐ確認できるようにしている。 ・「薬の知識」という本をフロアに置き、スタッフに読むように促している。 ・個々の症状に合わせて、Drや薬剤師に相談しながら、服薬し易い方法を工夫している。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事ごとに入居者の喜びや楽しみや馴染みなどの聞き取りを行っている。冬は新年会、春は梅まつり、夏は庭で夏祭りを企画。 ・施設周りの庭の庭仕事を入居者をお願いしている。また、それぞれに掃除・食器洗い・ゴミ捨て等の役割を持って頂いている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物や喫茶店や散歩などの外出支援を日常的に行っており、行き先は本人の希望を聞き取っている。 ・小旅行を企画し、なじみの場所や入居者の行きたい場所へ行けるよう、ご家族と協力しながら計画を進めている。 	ホーム近隣の散歩やウッドデッキに出たのいやつと外気浴、法人の喫茶店、朝市等に出掛けている。年1回の1泊旅行に利用者と家族が帯同して出かけている。利用者の希望に沿った企画を立て、「個別の外出」も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物に行った際には支払をお願いし、ご本人が難しい部分はフォローしている。支払う事を継続できる環境を整えている。 ・人によっては、なじみの財布を持たれている方もみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・フロアに電話を置き、入居者が使える環境がある。 ・会話が他者に聞こえない場所で利用できるようコードレス電話機など設置し配慮している。 ・携帯電話を持ち込まれている入居者に使い方を聞かれた際は丁寧に教えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・庭に面した縁側で、季節の変化を感じながらお茶を飲む等、皆で楽しめる空間となっている。普段からも縁側で景色を眺めたりしている。 ・トイレのごみ箱は頻繁に取り換え、ニオイを吸収する壁材や香りのよい芳香剤を使用する等、配慮している。	「昔馴染みの暮らし」が実感できるホームである。和式便器の設置やリビングの掘り炬燵・障子・縁側・床の間があり、家庭的で落ち着いた環境である。台所は対面式で見守りがしやすく、台所からの匂いや音が感じられ、清潔で居心地よい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・施設の中に家族控室があり、自由に使える空間となっており、個々に居心地のいい空間で過ごすことができる。 ・外出支援のツールとして玄関先やデッキにベンチを設置し、フロア以外でもくつろいだり、話をしたりできる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に、馴染みの道具(家具や寝具など)を持ってきてもらえるようにご家族に協力を依頼している。 ・設置された思い出ボックスに馴染みの写真や作品を飾り居心地を良くできるように環境を整えている。	利用者の居室前には表札が掲げられ、利用者が分かるように大切な写真や手紙入れのポストがある。馴染みの鏡台・椅子・筆筒・ラジカセ等が持ち込まれ、窓には障子があつて清潔で居心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・入居者のなじみの環境(畳・掘りごたつ・まわすタイプの蛇口・障子など)を設置することで「わかること」「出来ること」が増える環境を整えている。 ・掘りごたつに座る、立つの動作を日常的に行うことで、残存能力を活かせるようにしている。		